

忙 申 閑

テレビを見ながら原稿を書いていると、知らぬ間にテレビに引き込まれてなかなか執筆が進まない。その点ラジオはあまり邪魔とならない。最近はradiko（インターネットでのラジオ番組配信サービス）などを利用してラジオを聴くことが多いので、パソコンで原稿を書く作業との相性も良い。この原稿もラジオを聴きながらキーボードを叩いている。BGM替わりとするならば音楽番組だが、年齢的に同じ音楽といっても最近のヒット曲より1980～90年代の曲の方が馴染む。そう、私もヤンタン、ヤンリク、オールナイトニッポン世代である。当時番組でかかる曲はアイドル歌謡曲、フォークソング、演歌、洋楽までジャンルはさまざまであった。その頃耳に入っていた音

楽が今も聴いている音楽の原点になっている。

現在、特に積極的にこの番組を聴くと決めているわけではないが、車で移動したり、原稿書きを中心とした事務作業をしたりするのはだいたい決まった時間帯となるため、同じ番組を聴いていることが多い。だいたいは、パーソナリティーが少しおしゃべりしてリクエスト曲をかける、そして天気予報やニュース、交通情報のコーナーが盛り込まれるというような昔ながらの番組である。耳なじみの曲がかかれば口ずさんだり、パーソナリティーの発言に突っ込みをいれたりしながら聴いているというのも変わらない。

ビデオリサーチ社の2017年12月度関西圏

ラジオを聴いていますか

広報委員会副委員長 川崎 康寛

ラジオ聴取率調査によれば、調査期間の1週間のうちに5分以上ラジオを聴いた人は56.5%、その人々は1週間で計14.4時間、1日にすれば2時間余り聴いているようだ。結構聴かれているのだなという気もするが、毎年少しずつこの数字は低下している。また世代別に見ても20歳代は50歳代や60歳代の2割ないし3割しか聴いていないようで、今後もラジオを聴く文化は続いていくのであろうか。

ラジオを聴くと、画像情報が無い分、脳の前頭前野が刺激、活性化され、そこから頭に風景などを思い浮かべるという作業が行われる。その前頭前野はヒトたる思考能力を担っている中枢で、老化で最も早く機能の低下が起こる部位でもあるそうだ。そ

うならば、ラジオを聴くことで刺激を与え続ければ老化を防げるのかもしれない。ウン十年前、受験勉強の時も深夜ラジオ放送がお供であった。今は、医師会などの会合、研究会への行き帰りの車の中でのお供であり、原稿書きのお供でもある。これからはちょっと早いかもしれないが、認知症防止のお供となってくれそうだ。一緒にラジオを聴いてみませんか。